

豊里町農産物流通調査について

豊里町のあらまし

豊里町は茨城県の南西部の小さな純農村で、東西6.3km、南北9.7km、総面積31.12km²です。東京から45～55km圏内にあり、筑波研究学園都市6ヵ町村の一員であり、東は研究学園地区に接して土浦市に通じ、西側は小貝川を隔て石下町、水海道に接し国道294号に出ます。北は大穂町から筑波山へ、また南は谷田部町に接し、こちらは常磐自動車道、谷田部インターチェンジに連絡します。

本町は、昭和30年4月、2村の合併により、豊里町と改称し、翌31年隣村の一部が分村編入合併し、今日の豊里町に至りました。総面積の63%が耕地で、18%が山林、残りが宅地などになっており、標高25～30mの平坦な洪積台地、火山灰土性のローム層におおわれ、一部小貝川沿岸は地味肥沃な沖積地となっております。気象は平均気温13.1℃、雨は5月から8月にかけて150mmずつ降る自然条件に恵まれた平穏な田園町であります。

総農家数は1,509戸、総世帯数の6割が農家です。50年以降専業農家は横ばいですが、第1種兼業農家は、大きな降下線を示し、第2種兼業は上昇中で、その差はますます広がりがつあります。

生産物については、米、麦、養豚、芝などです。芝は本町の一大特産物とでもいうか、2種兼業化を裏付けて異常に多いのです。

人口においては、昭和45年10,409人を底にして、昭和55年には、11,473人と増加の傾向にあります。

実施のいきさつ

主産業を農業とする純農村の町としての地域性を生かした、国・県のしていない調査を、町独自調査として、継続してできたらと願っている時に、町として初年度を56年とする総合計画樹立が進行中でした。その総合計画の農業分科会の農業者の自主的話し合いのなかから、町の農業をみると、農業は減少の一途である。それでも就業人口比においては、4割を占めている。それに、本町の農業は、野菜、畜産物など、生鮮食料品の消費地として、首都圏を、また、身近な消費地となり得る筑波研究学園都市の中心部、研究学園地区を有しており、その生産基盤である農用地は

豊富に有するなど有利な条件を備えている。それらを生かすためにも土地利用の高度化、農用地の集積を進め、特産物化および生産性の向上をはかり、地域営農を基本とした農業の再編成を進める必要がある。それには、今まで農産物はどうのルートで販売されていたか。という問題が出て、資料がほしいとの声が出ました。しかし、資料がない。農協を通す、農家個々のルート、また軒下取引ですなど一般的な答えしかできなかった。あー、資料がほしい…そうだこれを町独自調査として実施しようということで豊里町農産物流通調査が誕生したのです。

今回の調査は、第1回豊里町農産物流通調査として、県農産物流通調査を参考にして実施しました。調査票、記入の仕方など全部手作業により、また集計も手集計によるもので、結果報告書もタイプ謄写印刷という手作業一式の調査でした。それに第1回目のため販売数、また、流れなどの、比較ができませんでしたが、第1回を参考に次回調査には、もう少しほりさげたものにしていきたいと考えております。

調査の実施要領

調査は(表一1)の調査票で各事項について実施しました。

1. 調査の目的

町の農産物流通の安定と農業の発展のため、農業行政ならびに農業経済計画の重要な基礎資料を得るため。

2. 実施

昭和56年豊里町農産物流通調査。

3. 定義

ア. この調査における指定農産物は

○農家であって、農産物の仕入(家畜)販売(出荷)のあったもの。

イ. 調査業態、地域

○農協 ○組合・団体 ○卸売業 ○仲買業 ○家畜商
○代理商仲立業 ○市場 ○加工業者 ○大口消費者
○その他
○県北 ○鹿行 ○県南 ○県西 ○県外

4. 調査の期日および期間

昭和55年7月1日から、昭和56年6月30日までの1年間における仕入(購入)および販売(出荷)数量を昭和56年7月

表一 豊里町農産物流通調査票(抜粋)

(調査年
昭和55年7月1日から
昭和56年6月30日まで)

枚のうち 枚目

調査区名	農家 番号
------	----------

1. 1年間の仕入または購入の状況

(1) 子 豚

(単位:頭)

	県内地域別仕入量				県外別仕入量				計
	県北	鹿行	県南	県西	東京				
生産者									
農協									
経済連									
畜産連									
組合団体									
家畜商									
市場									
その他									
計									

この調査結果は、農産物流通の安定と農業の発展のための農業行政ならびに農業経済計画の重要な基礎資料となります。また、この結果は個人の課税の資料には絶対使用しません。

世帯主名 _____

2. 1年間の出荷または販売の状況

(1) 品目 _____

(単位:)

2. 1年間の出荷または販売の状況

(2) 品目 _____

(単位:)

	県内地域別出荷量					県外別出荷量					計
	県北	鹿行	県南	県西	東京						
農協											
組合団体											
経済連											
卸売業者											
仲買人											
代理商業											
仲立業											
市場											
加工業者											
大口消費者											
小売業者											
その他											
計											

(実際の調査票は、2.の1年間の出荷または販売の状況の項目が(3)、(4)品目まで記入可能の様式となっている。)

表二 豊里町農産物流通調査照査表

枚 枚目

調査区名 _____

調査員氏名 _____

農家番号	氏名	枚数	仕入品目数	販売品目数	農家番号	氏名	枚数	仕入品目数	販売品目数
計					計				

表三 調査業態別出荷件数

計	農協	組合団体	経済連	卸売業者	仲買人	代理商業 仲立業	市場	加工業者	大口消費者	小売業者	その他
90	17	2	5	11	17	—	23	8	2	5	—

市町村だより

1日現在として行う。

5. 調査の方法

調査に関する事務は町が当り、実査は統計調査員が行い
自計申告の方法をとった。

少々残念なところもありますが、こうした経験を生かして、
これから農業センサス、基本調査のない年に、農家、調査
員の協力をもって隔年ごとに調査を実施していく予定です。
その数字を関係する機関、行政に反映させ、出かせぎのな
い、自立農家、特産物化、生産性の向上などの基礎資料と
していきたいと考えております。

(豊里町企画課統計係 大塚季美)

調査結果概要

表一 3 総農家数1,509戸中調査対象とし
て、1,234戸81.2%になります。また販売数
42種のうち業態別にみると90業態に分かれま
す。

表一 4 品目、業態、地域間の調査票集計
状況を%で示しました。

表一 5 調査対象の単位をそろえられない
ので、比較に無理がありますが、市場、卸売
業者へ大半の農産物が個々に販売される傾向
にあることを示し、農産物の特産化の確保の
点で立遅れていることを示しています。

表一 6 地域間の流通をみると自己地域内
での流通がほとんどです。また花キ類におい
ては、県外の(東京)市場への販売を示してい
ます。

表一 7 仕入(購入)においては、本町の生
産物の1つに養豚、ブロイラーがあります。
子豚を仕入飼育して販売することが本町では
主たるものですので、この調査では、家畜だ
けを仕入調査といたしました。

地域的には、県南が50%ちかくを占め、県
外からも30%の仕入があることを示していま
す。業態間においては家畜商からの仕入が大
きな数字を示しています。

調査を終わって

本町には、各集落から統計調査員として登
録されている調査員が、55名おります。農業
調査(農業センサスなど)としては調査員も農
家も経験がありますが、この調査は初めての
ことで、調査員、農家、係、とも少々とまど
いもあり、また、品目、数量などにおいても

表一 4 地域間流通状況

(単位:%)

	県北	鹿行	県南	県西	県外	計
らっかせい	0.9		97.7	0.9	0.5	100
ばれいしょ			92.3		7.7	100
キュウリ			96.7		3.3	100
トマト			94.3		5.7	100
ねぎ			73.1		26.9	100
とうもろこし			89.2		10.8	100
はくさい			72.1	3.6	24.3	100
ピーマン			100			100
スイカ			92.5	0.9	6.6	100
さつまい			95.2		4.8	100
うり			100			100
さといも			100			100
キャベツ			100			100
大豆			100			100
ほうれん草			100			100
人参			75.7		24.3	100
しょうが				100		100
大根					100	100
しいたけ					100	100
なめこ					100	100
ゴマ			100			100
タバコ			100			100
茶			100			100
いちご					100	100
メロン			85.7		14.3	100
くり	63.4		36.6			100
なし			100			100
うめ			100			100
芝	0.8		98.6	0.4	0.2	100
豚	0.2		93.4	4.6	1.8	100
子豚			99.7	0.3		100
牛			100			100
ブロイラー			52.6	26.3	21.1	100
牛乳			100			100
植木			0.2	0.7	99.1	100
蘭			100			100

表一五 類別、業態間販売数と構成比

	農協	組合 団体	経済連	卸売 業者	仲買人	代理商 仲立業	市場	加工 業者	大口 消費者	小売 業者	その他	合計
野菜類 ^t (%)	294 (22.2)	99 (7.4)		140 (10.6)	152 (11.5)		600 (45.2)	24 (1.8)	5 (0.4)	12 (0.9)		1,326 (100)
果樹類 ^t (%)	1 (0.5)		0				68 (32.1)	3 (1.4)		140 (66.0)		212 (100)
花卉類 ^本 (%)				10,350 (19.3)	5,150 (9.6)		38,000 (71.1)					53,500 (100)
家畜頭羽 家さん(%)	1,972 (2.9)		571 (0.8)	21,943 (32.1)	4,335 (6.4)		530 (0.8)	38,000 (55.6)		969 (1.4)		68,320 (100)
百分比換算	6.4	1.9	0.2	15.5	6.9		37.3	14.7		17.1		100

表一六 類別、地域別販売数と構成比

	県北	鹿行	県南	県西	県外	合計
野菜類 ^t (%)	2 (0.2)		1,194 (90.0)	8 (0.6)	122 (9.2)	1,326 (100)
果樹類 ^t (%)	4 (1.9)		208 (98.1)	0		212 (100)
花卉類 ^本 (%)			100 (0.2)	400 (0.7)	53,000 (99.1)	53,500 (100)
家畜頭羽 家さん(%)	50 (0.1)		48,556 (71.1)	11,234 (16.4)	8,480 (12.4)	68,320 (100)
百分比換算	0.5		64.9	4.4	30.2	100

表一七 業態、地域間仕入比率

(単位:%)

	県内地域別仕入量				県外別仕入量				計
	県北	鹿行	県南	県西	群馬	宮城	東北	福島	
生産者	24.8		35.5	2.5			24.8	12.4	100
農協	1.7		98.3						100
経済連 畜産連									
組合団体									
家畜商			50.2	18.7	7.8		15.5	7.8	100
市場			13.6	40.9		45.5			100
その他									
比率	6.6		49.4	15.5	2.0	11.4	10.1	5.0	100